



# 入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子！

2018年6月1日

No. 3

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：命とふるさとを大切にすることの育成

目指す児童像：《一はきはき一 てきばき一 にこにこ》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子  
心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやおき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

## 「梅雨」の恵みを感じよう！

6月から7月にかけては雨の日が多く、室内での生活が多くなり十分な運動ができなかつたりしがちです。そんな季節こそ、室内での生活を工夫したり、花や昆虫などから季節感を味わったりするなどの生活をさせたいものです。さらに、四季をもつ日本の特性を理解し、それぞれの季節のよさやそれを生かした生活に目を向けて学校生活、家庭生活を送ってほしいといった願いから、朝会で話したことを紹介します。



【朝会講話より〈5月28日(月)〉】

6月は雨の多い月です。日本では6月を旧暦の呼び名から水無月(みなづき)と呼びます。「水が無い月」と書きますが、昔から田んぼに水を引くためにたくさんのお水が必要であったり、梅雨に入る月で雨の多い季節であったりと、水にはたいへん関わりの深い月です。それなのになぜ「水無月」というのか不思議ですね。是非、担任の先生やおうちの人と一緒に調べてみてください。

「梅雨」は6月から7月の夏休みに入る頃まで40日間程度続き、外遊びが大好きな皆さんにとっては過ごし難い季節かもしれません。

しかし、この時期、水を大量に必要な人たちがいるのを皆さんは知っていますか。それは、米作りをしている農家の人たちです。入谷小でも、5年生の皆さんが、5月24日に田植えをしました。稲は、この雨の季節に大きく成長します。だから稲を大きく丈夫に育てるにはこの「梅雨」の時期は大量の水が必要で、米作り農家の人たちがとても大切にしている季節です。

また、この時期に元気いっぱい咲く花もあります。それは紫陽花です。昔から梅雨時を代表する花として美しさを誇っています。それは、雨に打たれながらも小さな花がガッチリまとまって咲き、一つの大きな花に見える美しさがあるのです。紫陽花の花には協力する姿の美しさがあります。それに、咲いているうちにだんだん色が変わっていきます。初めは白っぽい色をしています。植えている場所の土の性質によってピンク色から赤色に変わったり、青色から紫色に変わったりするのです。このことから、紫陽花の別名は「七変化」(シチヘンゲ)とも言われています。



この他にも、葉っぱについているカタツムリや田んぼで合唱しているカエルなどこの季節を元気に楽しんでいる生き物たちもいますね。



皆さんもこの雨の季節を楽しく過ごす方法を工夫したり、雨の季節でしか見ることができないものを見つけたりして梅雨の恵みを感じてみてください。

## 《5月の職員会議で教職員に提示したことばです!》



のことば・・・

「成功の反対は失敗ではなく『やらないこと』だ」

【なでしこジャパン前監督 佐々木 則夫】

なでしこジャパンといえば、2011年ドイツで行われたサッカーワールドカップで男女を通じて初めて優勝、2012年ロンドンオリンピックでは銀メダルを獲得、と輝かしい成績を残し、私たちに大きな感動を与えてくれました。

その時のなでしこジャパンの監督が佐々木則夫さんです。佐々木監督は33歳で選手を引退して、指導者の道を歩み始めたそうです。指導者になってからも「僕の成長が止まってしまうえば、なでしこジャパンは世界の中で遅れをとってしまうんだ」という常に挑戦する心を前面に出し「選手が成長するかどうかは、技術や知識ではなく、決意が本物かどうかで決まるものだ」と本当にやりたいことに本気で向かい挑戦する気持ちが大切であるとも言っています。そして、選手一人一人が自分で考えてプレーできるようにしたり、目的をはっきり示してあげたりすることを実践したそうです。

もちろん、挑戦する気持ちを佐々木監督のように、何年間も持ち続けることは大変なことです。私自身も、途中でやめたくなることもあります。そんな時には、佐々木監督の「成功の反対は失敗ではなく『やらないこと』だ」ということばを思い出します。

頑張っ乗り越えられることばとして「何回でも少しずつ考えたことを基に挑戦し続けること。何もしなければ何も変わらない。成功もしない。」を励みに、私も職務に専念していきたいと思っています。

どの子供も、今よりも「もっとよくなりたい」「できるようになりたい」という気持ちをもっています。しかし、一つのことに挑戦しても、長続きしなかったり、途中で壁にぶつかるとう違う方法を考えたり、他の人に聞いたりしないで悩むだけでやめてしまうこともあります。目的には、目の前の小さな壁を一つずつ繰り返しながら自分で乗り越えることで、近づいていきます。

自己ベストを目指し、一生懸命取り組んだ運動会。今後も、目標に向かって、挑戦するすばらしさと、挑戦する大切さを子供たちに伝え、指導、支援にあたってほしいと思います。



ご家庭においても、常にお子さんがどんな目標を掲げているかを確認してみてください。その目標に向かって力を出し切れるよう励ますことで、さらに“未知なる子供の力”が湧いてくると思います。

子供が目標に向かい努力し、「挑戦続けることの大切さ」を促す言葉として活用してみてください。